

図書館だより

埼玉県立図書館

25号

やぶさめ

毛呂山のほぼ中央に位置する臥竜山という小高い丘の上にある出雲伊波比神社で毎年十一月三日にやぶさめ祭りが行われる。

やぶさめの由来は、康平六年（三三）源義家が、奥州を平定し、それ

を祝って凱旋のしるしに奉納したと伝えられている。

近在の人たちは「毛呂山のホイホイ祭」とも呼んでいる。これは馬の口をとる人と、やぶさめの行列を見守り見送る人とがホイ・ホイ・ホイとかけ声をかけるためである。

祭りの日、その行列のかけ声が聞

こえてくるたびに、行列をどこまでも追いかけていった幼い頃が思い出されてくる。

やぶさめ祭りは、そこに住む人々の心の片隅に色とりどりの絵巻を繰り広げてくれる。

（佐野）



（毛呂山町総務課提供）

開館十年を迎えた県立川越図書館

県西地区の住民が長い間、待ち望んでいた埼玉県立川越図書館が開館して、今秋で十年になります。

知事が開館式に記念植樹された「楷」の木も、ひとまわりも、ふたまわりも成長し、当館の発展を象徴するかのようになり、深緑の葉を繁らせております。

昭和四十九年四月一日に、川越市役所内に開設準備室が発足し、五十年四月一日には、開設準備事務所となり、それから半年、十月一日に「埼玉県立図書館設置条例」および「埼玉県立図書館管理規則」が改正・施行され、埼玉県立川越図書館として正式に発足しました。

十月三十一日には、来賓、関係者列席のもとに開館記念式典と前述した植樹などの記念事業が盛大に挙行されました。

そして、一週間後の十一月七日に、はじめて、県民に対して奉仕活動を開始しました。このとき、業務を開始したのは、貸出閲覧室、子ども読書室、朗読室だけでしたが、市町村立図書館が整備されていなかった当時であつて、川越駅西口の新聞地に県立図書館が新設されたのは、川越市民はもとより県西部市町村の住民にとつて画期的な出来事であつたことと思われまふ。

翌五十一年の四月一日に視聴覚業務を、続いて七月三十日には参考調査業務を、更に十月二日移動図書館の運行を開始して、県立川越図書館としての県民へのサービス体制が整いました。

以来十年、こういった諸業務も、おかげさまで順調に発展してまいりました。ここで、県民の皆さんの一層の御理解と御利用をいただくために、当館の諸業務のうち、幾つかを取上げ、紹介したいと思います。

「参考調査」業務とは、皆さんが日常生活の上で起つた疑問点について知りたいとき、また仕事の上で必要とするデータを求めたいときなど、御質問に応じて、所蔵資料の中から最適な内容のものを探索して提供し回答するという業務です。

当館三階に、参考調査室があり、来館されて、直接お尋ねいただくのはもちろん、電話、手紙によつても御質問を受け付けております。

開館以来さまざまな質問が寄せられており、その件数は、五十二年度一、四四一件から五十九年度六、九四三件と急速な伸びを示しています。

また、参考調査室では、図書館資料の「複写サービス」も取扱つております。もちろん著作権法の範囲内で行つ

ており、例えば複写は、あくまでも個人的な調査研究のためであり、娯楽や鑑賞を目的としたものではないことになっております。また、複写できるのは、著作物の一部分であることなど、いろいろと制限があります。詳しくは係員にお尋ねください。

なお、複写については実費を納入していただきます。

取扱い枚数は五十二年度二二、九九四枚から五十九年度五五、二五五枚と増加の一途をたどつています。複写機による複写は、筆写に代わる便利なものですが、反面、資料の破損を招くため、機器の改造など、今後の課題があると言えます。

当館では、新聞の埼玉県版を切り取り製本したものなど、破損のおそれがある資料については複写をお断りしております。

このほか、参考調査室では、「図書館資料貸借」という業務も行つております。これは皆さんが地元市町村立図書館に、読みたい図書希望されたいけれども、その館が所蔵していない場合、その館から依頼を受け、当参考調査室が、自館はもちろん、他館の所蔵を探索し、依頼館を通して皆さんに資料を提供する業務です。その際、図書を利用者の手元に届けるための連絡便として当館では、対市町村立図書館（協力車）、県立図書館間（連絡車）に定期的に車を巡回しています。

県内図書館めぐり

入間市立図書館

図書館は昭和四十一年、市制施行に伴ない市役所の隣にプレハブ造りで誕生した。四十八年には市民会館と中央公民館の開館の際、その二階の一室に構え、移動図書館の運行とともに市民サービスに努め実績をつみ重ねて来た。そして市民待望の新館が昭和六十年四月十三日（土）にオープンした。

産業文化センターB棟の玄関を入るとそこが図書館であり、長く奥へ折れた重厚なカウンターはすぐに入館者を読書の世界へ誘ひこむ。

カウンターを右へ進むとブラウジングコーナー、一般書コーナー、教員の机と椅子、対面朗読室がある。左へ進むと児童書コーナー、お話しコーナーがあり、円型の低書架、無造作に置かれたクッション、そしてグレイのじゅうたんなど、まるでお話し部屋のような雰囲気だ。

図書館は読書、研究に必要な資料を求める市民のためにある。という理念のもと「資料を正確・迅速・親切に提供すること」をモットーとして、多様化する市民の要求に応えるため各種資料の充実とその利用拡大を図つてい

なお、直接、当館に来館され特定の図書希望（「リクエスト」）される方は、二階の貸出閲覧室カウンターへお越し下さい。当館に所蔵していない図書については、県内の他館に照会し、場合によっては国立国会図書館から取寄せます。また、図書によっては購入することもあります。

先頃刊行した県立四館の図書約十六万タイトル収録の蔵書目録（書名篇）は、県内の図書館に配備してありますので、この業務の推進に役立っております。

この図書館資料貸借の取扱冊数は、五十二年度七八一冊から五十九年度四、七九六冊と増加しています。

この辺で、入館風景の移り変わりをみてみましょう。以前は、玄関を入りますと正面に総合カウンターがあり、当館全体の案内を行つていましたが、五十八年度から、これを撤去し、午前中一名であつた貸出閲覧室カウンターの名を二名とし、また参考調査室カウンターも、終日一名であつた係員を二名として、両カウンターのサービス態勢の充実を図りました。

貸出閲覧室の「中学生・高校生・大学受験生席」は、学校の夏休み時は、いつも超満席です。最初の頃は先着順に座席札を渡していたので、夜明けとともに来館し開館を待つ生徒もおり、弊害も出てきました。このため五十四年度から現在の抽選制にしました。こ

産業文化センターが街の中心に位置し、その中にある図書館がその利点を活かし、更に利用者にも最も使い易い建物部分を占めたことは関係者の理解と職員の尽力によるものであろう。

概要

○施設 鉄筋コンクリート（産業文化センター地上三階地下一階の一部）

延床面積二、二二八㎡

一階 一般室、児童室、対面朗読室、お話しコーナー

二階 事務室、書庫

地下 駐車場

○移動図書館車 一台 十七駐車場

○所蔵資料 図書（児童書含む）六万五千冊、雑誌六〇誌、新聞四紙。



児童図書コーナー

所在地 入間市向陽台一ノ一ノ七
TEL (0429) 642415



●第七回「本を読む県民のつどい」
県民の皆さんが、本に親しみ、図書館活動に対する理解を深めていただくよう「本を読む県民のつどい」を次のとおり開催します。
多数の方々の参加をお待ちしています。

日時 11月8日(金) 13時～16時10分
会場 熊谷市立文化センター文化会館
内容 ○読書グループ及び地域・家庭
文庫の表彰
○読書グループ及び地域・家庭
文庫の表彰
○記念講演 講師・倉本聰氏
演題・「北の国で考える」

※申込み ハガキに住所・氏名・電話番号を明記のうえ11月1日(金)までに、県立熊谷図書館「本を読む県民のつどい」係宛(〒300 熊谷市箱田五ノ六ノ一) お申し込みください。定員(500名)になりしだい締切らせていただきますが、定員を超えた場合のみ御連絡いたします。

●県立図書館休館のお知らせ
秋期特別整理のため、次の期間休館となります。
●浦和・熊谷図書館
10月14日(月)～10月23日(水)

10月12月
主な催し物

●川越・久喜図書館
10月2日(火)まで
ただし、いずれも移動図書館、一般事務は行っています。

●県立浦和図書館

●著者を囲む会
日時 11月16日(土) 13時30分
会場 北本市文化センター
内容 講演 講師・森敦氏
演題・「奥の細道」

●資料展示会
期間 11月8日(金)～11月14日(木)
内容 「さいたまの自然」

●県民の日映画会
日時 11月13日(木) 14時
内容 「荒川」「ふるさとと点描」

日時 11月14日(金) 14時
内容 「ふるさとと野鳥」
「ふるさととの味」「ふるさとを棄てたサギ」「生きていく土」

●読書週間映画会

日時 10月29日(火) 14時
内容 「川端康成と伊豆」「漱石の世界」「幾山河の歌」
●名作映画会
日時 11月9日(土) 14時



内容 「ふるさと」
●新着フィルム映画会
日時 12月5日(火) 14時
内容 「父ちゃんの汗に乾杯」
「お母ちゃんの卵焼き」

●土曜映画会
日時 10月12日(土) 14時
内容 「日本の太鼓」「十五少年漂流記」

日時 12月14日(土) 14時
内容 「最後の丸木舟」「柳田国男と遠野物語」

●県立熊谷図書館

●著者を囲む会
日時 10月9日(火) 13時30分～15時30分
会場 深谷市民文化会館
内容 講演 講師・阿川弘之氏
演題・「旅のつてにをは」

●郷土を知る資料展
先着300名

期間 11月12日(火)～11月17日(日)
内容 県北実業家伝記資料展
●教養講座「あなたも昔話を語ってみませんかPart2」
日時 10月7日(日) 13時30分
会場 埼玉県熊谷福祉センター
内容 講演 講師・佐々梨代子氏(東京子ども図書館) 演題・「お話を語るといことは」

●名作映画鑑賞会
先着100名

日時 10月5日(土) 10時～14時
内容 「いちご白書」
日時 11月2日(土) 10時～14時
内容 「駅」

●県民の日映画会

日時 11月14日(木) 13時
内容 「アニメフェスティバル」
「オルトデイズ」作品集
「川口の鉄物師」「パレオパラドキシア」

●ビデオコンサート
日時 10月26日(土) 14時
内容 「コンバートメント」松任谷由実

日時 11月16日(日) 14時
内容 「イブ・モンタン、ワールドツアー」
※ 映画会及びビデオコンサートはいずれも先着50名

●県立川越図書館

●著者を囲むつどい

日時 10月16日(水) 13時～15時30分
内容 講演 講師・青木雨彦氏
演題・「本と人生」

※申込み ハガキに、住所・氏名・電話番号を明記のうえ10月5日(日)(当日消印有効)までに県立川越図書館「著者を囲むつどい」係宛(〒350 川越市新宿町一ノ七ノ一) お申し込みください。

●郷土を知る資料展

期間 11月12日(火)～11月17日(日)
内容 「埼玉の民話」民話の本、池原昭治氏の原画展示など

●名作映画会

日時 10月5日(土) 14時
内容 「マタギ」
●新着児童フィルム映画会
日時 10月26日(日) 14時
内容 「銀河鉄道999」永遠の旅人エメラルダス

●映画と音楽のつどい「ルネ・クレマー マルセル・カルネ監督作品」
日時 11月9日(土) 13時30分
内容 「巴里祭」レコード演奏(シヤンソン)

○第二回 11月16日(土) 13時30分
内容 「天井桟敷の人々」

●移動図書館利用者のつどい

○第一回 10月30日(火) 13時～15時
会場 玉川中央公民館
内容 講演 講師・三枝和子氏
演題・「女流作家の書く男ぞし

て女

※ 先着200名

○第二回 11月12日(火) 13時～15時
会場 越生町視聴覚ホール
内容 講演 講師・増田れい子氏
演題・「『書く』とはどういうことか」

※ 先着200名

●県立久喜図書館
●著者を囲む会
日時 10月26日(土) 13時30分～15時30分
会場 三郷市文化会館
内容 講演 講師・上坂冬子氏
演題・「人生のドラマ―私の取材ノートから」

※申込み ハガキに、住所・氏名・電話番号を明記のうえ10月15日(日)(消印有効)までに県立久喜図書館「著者を囲む会」係宛(〒360 久喜市下早見八五ノ五) お申し込みください。定員(400名)になりしだい締切らせていただきますが、定員を超えた場合のみ御連絡いたします。

●郷土資料展

期間 11月12日(火)～11月17日(日)
内容 東部地域(北埼玉郡、南埼玉郡、北葛飾郡)を中心とした幼稚園から大学までの学校誌、記念誌、要覧等の展示
●児童文化講座(連続五回)
日程 第一回10月4日(金) 第二回10月

11日(金) 第三回10月18日(金) 第四回10月25日(金) 第五回11月1日(金)

時間 13時30分～16時30分
会場 蓮田市中央公民館
講座名 「お話しの実際と問題点」
講師 秋葉恵子氏

●児童文化講座(講演)
日時 11月15日(土) 13時30分～16時
内容 講演 講師・工藤直子氏
演題・「ことばを通して子どもと出会う」

※申込み 連続講座(定員30人)
講演(定員100人) いずれも県立久喜図書館直接又は電話(0480-22659)へお申し込みください。

●県民の日映画会
日時 11月14日(木) 10時～13時30分
内容 「風の谷のナウシカ」

●名画鑑賞会

日時 10月26日(日) 10時～13時30分
内容 「ムーハートプの赤い屋根」
日時 11月16日(土) 10時～13時30分
内容 「周防猿まわしの記録」

●ビデオコンサート
日時 10月3日(日) 13時30分
内容 「コンプリート・ピートルズ」
日時 10月24日(土) 13時30分
内容 「ホロウィッツ・イン・ロンドン」

日時 11月7日(日) 13時30分

●県立久喜図書館

●県立川越図書館

●県立熊谷図書館

内容 「レッツ・スベンド ザ・ナイト・トゥギャザー」ザ・ローリング・ストーンズ
日時 11月21日(木) 13時30分
「伝説から神話へ」山口百恵
●映画会
日時 10月17日(火) 13時30分
内容 「歴史と遊ぶ」「古代さいたまのあけぼの」
日時 10月30日(土) 13時30分
内容 「縄文時代」「古代からの歴史にみる日本列島と朝鮮半島」
日時 11月28日(日) 13時30分
内容 「ふるさと埼玉」「ふるさと・美しく」「ふるさとと歩道」
黒山三滝と梅林コース」「ふるさと歩道―高麗の里」

全ての催し物は無料です。
会場の記入がない場合は、いずれも主催館(印)が会場。詳細は県立各館まで。

●県立浦和図書館
(〇四八八) 二九二二八二二

●県立熊谷図書館
(〇四八五) 二三二六二九二

●県立川越図書館
(〇四九二) 四四一五六〇二

●県立久喜図書館
(〇四八〇) 二二二二六五九

埼玉の文学 埼玉の小説家

▽2△

豊田 三郎

重厚で独特の味のある作品を描いた豊田三郎も、数少ない埼玉出身の作家の一人である。豊田は明治四十年二月十二日、南埼玉郡川柳村（現草加市）に生まれる。医師の父勝太郎、母とよの三男である。川柳尋常高等小学校から柏壁中学（現・春日部高校）、静岡高等学校を経て、昭和五年に東京帝国大学独文系を卒業する。

五年六月、高木卓、木暮亮らと同人誌「制作」を創刊。同誌十一号から福沢一郎を加え題名を「憤泉」に変えて四号まで発行、更に真下伍一、坪田譲治らも参加し「意識」と改題して発行する。この時期の作品に「未就職者の手記」（「制作」五年六月）「夏の幻影」（「憤泉」八年三月）「車上」（「意識」八年十二月）などがある。八年に紀伊国屋出版部に入社、文芸誌「行動」の編集長になり、舟橋聖一、阿部知二、田辺茂一らの知遇を受ける。八年十月、徳田秋声の「あらくれ」会に参加。「リラの手紙」（「行動」九年二月）で注目され、「細い糸」（「行動」九年十一月）「弔花」（「新潮」

十年二月）で、行動主義文学の代表的作家の一人にこそえられる。「弔花」は行動主義文学の実践作として高い評価を得、芥川賞候補になる。

十年六月、処女短編集「弔花」を「紀伊国屋パンフレット」の一巻として刊行する。十年十月、森村浅香と結婚、森村姓となる。十一年五月、高木、木暮、桜田常久、高橋義孝、野口富士男らと「作家精神」を創刊。（のち福田恆存が参加する）十一年八月、短編集「新しき軌道」を刊行。また、舟橋、小松清と「行動文学」を創刊したが六号で廃刊する。

十三年、「文学的な出征を試み」るつもりで支那に渡る。十四年八月、長篇「北京の家」を刊行。十五年四月、湘南中学の国語教師になる。六月、同人誌「新風」に参加。十月、短編集「紹」刊行。十一月、長女森村桂誕生。十六年四月、短編集「秩父医院」刊行。五月、「現代文学」同人。十月、戦前の青春群像の一つの典型を描いた長篇「青年時代」を刊行する。十一月、徴用令により陸軍報道班員としてビルマに派遣され、高見順、清水幾太郎と苦楽をともにする。十八年三月、文部省国語課嘱託員。十二月、浦和市に疎開。

十九年二月、長篇「行軍」刊行。文学報国会小説賞を受賞する。二十年三月、留守宅戦災に遇う。六月、防衛召集により入隊。敗戦。十月、復員。長篇「孔雀」、短編集「林檎畑」を刊行する。二十二年九月、敗戦時の風俗に女の転変を織り込んだ「仮面天使」を「文学会議」に発表。水上勉のすすめにより改作した長篇「仮面天使」を刊行（二十三年十月）ベストセラーとなる。二十三年十月、長篇「最後の接吻」（「処女咲笑」）短編集「十字架と小悪魔」を刊行。十二月、新宿区大久保の旧居跡に家を新築し移る。二十四年四月、日本文芸協会書記長に就任。三十一年十一月、「仮面天使」と「青年時代」を「青春」と改題して再版する。三十二年、東京書籍の嘱託となる。

三十四年十月十八日、東京書籍の創立記念会に出席の途中、港区高輪の路上に狭心症の発作で倒れ、付近の病院で数時間後に急逝する。五十二歳であった。三十八年、遺族の手により短編集「好きな絵」が刊行される。

豊田の二十五回忌の五十八年四月三日、豊田の愛した中川の畔の女体神社に、「豊田三郎文学碑」が建立される。碑文は「青年時代」より、

午後の太陽がきらきら照りつける街道から鳥をつたはって彼等は河原へ降りた。青い草原には風が爽やかに吹いていた。白雲が葛飾の森の上に城のよ

うにわたかまり、静かに移動しつづけた。

河はゆるやかに彎曲しながら、少し泥色を帯びて流れた。

「僕はこの河がすきなんだよ。流れをみていると倦まないものだ。自然の生命が動き、リズムを立てているように見えるんだ。」

とある。五十九年三月には草加市教育委員会から、「豊田三郎作品集」（全一卷）が刊行されている。

（日本ペンクラブ会員 榎本了）



科学者の著作 — 生物学者 —

自然科学において、二十世紀後半は、その前半の物理学の発展と対比して、生物学の時代といわれます。これは生命現象を分子レベルで解明してゆく分子生物学の出現によります。近年、話題となることの多い遺伝子工学は、この分子生物学と大きく関わっているのです。生物学はまた一方では、動物行動学や生態学等の著しい発達もみられました。そこで今回の「本のひろば」は、二十世紀に、めざましい活躍をみせた生物学者の著作を取り上げてみました。紙幅の都合で12人の生物学者に限らせていただきました。

記載の内容は、以下の順です。
書名（巻数） 訳者 出版者
（シリーズ名） 出版年（所蔵館）

E・O・ウィルソン
社会生物学（1～5） 坂上昭一ほか
訳 思索社 昭58～60 （浦11川1
1～5・久1～3）

集団の生物学入門 W・H・ホサート
共著 巖波一、石和貞男訳 培風館
昭52 （浦・久）

精神の起源について C・J・ラムズ
デン共著 松本亮三訳 思索社 昭60
（川・久）

人間の本性について 岸由二訳 思索
社 昭55 （熊・川）

C・S・エルトン

侵略の生態学 川那部浩哉ほか訳 思
索社 昭46 （浦・熊・久）

動物の生態 川那部浩哉ほか訳 思
索社 昭53 （川・久）

A・I・オバーリン

宇宙と生命 V・G・フュセンコフ共
著 金光不二夫訳 理論社 昭38
（浦・熊）

生命 石本真訳 岩波書店 昭37（浦）

生命の起源 石本真訳 岩波書店 昭

44 （浦・熊・川・久）

生命の起源への挑戦 C・ボナムベル
マほか著 講談社（ブルーバックス）

昭52 （熊・川・久）

生命の起源と生化学 江上不二夫編訳
岩波書店（岩波新書） 昭31 （浦・

熊・川・久）

物質と生命 理性 石本真訳 岩波書
店（岩波現代選書） 昭54 （浦・川）

F・H・C・クリック
生命 中村桂子訳 思索社 昭57（川

・久）
分子と人間 玉本英彦訳 みすず書房
（みすず科学ライブラリー） 昭45
（浦）

F・ジャコブ
生命の論理 島原武、松井喜三訳 み
すず書房 昭52 （川・久）

N・ティンバーゲン
足跡は語る E・A・R・エニオン共
著 今泉吉晴訳 思索社 昭52 （熊

・川・久）

生きるための信号 H・ファルクス共
著 安部直哉訳 思索社 昭52（久）

好奇心の旺盛なナチュラリスト 安部
直哉、斎藤隆史訳 思索社 昭55（熊

・川・久）

自閉症・文明社会への動物行動学的ア
プローチ E・A・ティンバーゲン共
著 田口恒夫訳 新書館 昭51（浦

・熊・川・久）

セグロカモメの世界 安部直哉、斎藤
隆史訳 思索社（世界動物記シリーズ）

昭50 （川・久）

ティンバーゲン動物行動学（上・下）
日高敏隆ほか訳 平凡社 昭57～58

（浦・上下・熊・上・久・上下）

動物のことは 渡辺孝ほか訳 みす
ず書房（現代科学叢書） 昭49（熊

・川・久）

鳥の生活 蝦山朋雄訳 思索社 昭52

（川・久）
ヒトと動物 K・ローレンツほか著
奥井一満、柴崎篤洋訳 思索社 昭50
（川・久）

本能の研究 '69年版 永野為武訳 三
共出版 昭50 （浦・久）

K・V・フリッシュ
十二の小さな仲間たち 桑原万寿太郎
訳 思索社 昭53 （川・久）

フリッシュ・あなたの生物学（上・下）
橋本文夫、鈴木健二訳 北隆館 昭52
（久）

ミツバチを追って 伊藤智夫訳 法政
大学出版局（コスモス・ブックス）

昭53 （川）

ミツバチとの対話 菅原隆、菅原美子
訳 東京図書 昭54 （浦・久）

ミツバチの生活から 第8版 桑原万
寿太郎訳 岩波書店 昭50（川）

ミツバチの不思議 改訂版 内田亨訳
法政大学出版局 昭38（浦・熊・久）

J・L・モノー

偶然と必然 渡辺格、村上光彦訳 み
すず書房 昭47（浦・熊・川・久）

J・ユクスキユル

生物から見た世界 G・クリサート共
著 日高敏隆、野田保之訳 思索社

昭48 （浦）

A・M・ルヴォフ

生命の秩序 松代愛三、下平正文訳

みずず書房〈みずず科学ライブラリー〉
昭48 (熊・久)

K・ローレンツ

鏡の背面 谷口茂訳 思案社 昭49

攻撃(1・2) 日高敏隆、久保和彦

訳 みずず書房〈みずず科学ライブラリー〉

昭45 (浦・熊・久)

行動は進化するか 日高敏隆、羽田節子訳

講談社〈講談社現代新書〉 昭51 (熊・川・久)

自然界と人間の運命(1・2) 谷口茂訳

思案社 昭58 (熊・川・久)

生命は学習なり F・クロイツァー共

著 三島憲一訳 思案社 昭57 (川)
ソロモンの指環 日高敏隆訳 早川書房 昭50 (浦・川)

動物行動学(1・上・下、2・上・下) 丘直通、日高敏隆訳 思案社 昭52 (川)

55 (川) 人・イヌにあらう 小原秀雄訳 至誠堂

昭41 (浦・熊) 文明化した人間の八つの大罪 日高敏隆、大羽更明訳 思案社 昭48 (浦・久)

J・D・ワトソン 遺伝子の分子生物学(上・下) 第3版

三浦謙一郎ほか訳 化学同人 昭52 (浦)

二重らせん 江上不二夫、中村桂子訳
パシフィカ 昭55 (川・久)

参考文献

生物学の歴史(上・下) 八杉龍一著 日本放送出版協会〈NHKブックス〉 昭59

生物学のすすめ 第2版 渡辺格編 筑摩書房 昭54

ほか

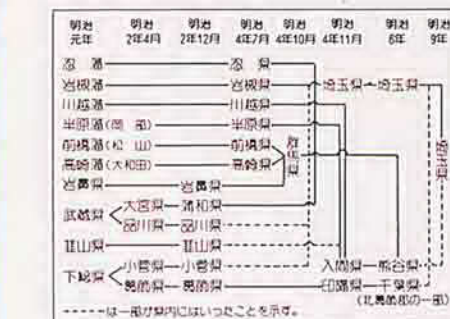


編集後記

九月も半ばを過ぎ、北の国からは早くも雪のたよりも届いてきました。さて、いよいよ、読書の秋も初まりです。「キラリ」知性、秋の一冊、これは、今年の読書週間の標語ですが、皆様も、秋の夜長を、じっくりと読書にあて、更に知性を、キラリ・キラリとかがやかせてください。また、この時期は、東西南北のお知らせに有りますよう、県立各図書館は、数多くの催し物を準備して皆様の来館をお待ちしております。今回は、「読書グループの紹介」は、案内が多いため、休ませてくださいました。

おたすねください

問 埼玉県の成立について知りたいのですが。
答 埼玉県の成立までには、いろいろなことがありました。
慶応三年(一八六七)大政奉還により、新政府は地方制度の改革をはじめました。その当時、県内に領地をもつ藩は川越・忍・岩槻をはじめ一七藩もありました。
明治元年(一八六八)六月、旧幕府直轄地・旗本知行地に、岩鼻、蕨山、武蔵、下総の四県が置かれ、翌二年、武蔵・下総二県の地が、



日を記念して「県民の日」が制定されています。
その後、諸県の統廃合は進められ、明治九年八月になって、ほぼ現在の埼玉県の境域が確定したのです。
参考文献
郷土史事典埼玉県 大村進・秋葉一男編 昌平社
わたしたちの郷土埼玉県 埼玉県郷土地誌研究会 光文書院
埼玉大百科事典 埼玉新聞社